

県北特産名品館① 総領こんにやく

製造技法継承で新商品も開発

「子供のころ、近所のおばあちゃんにや

ちやんがくれた手作りのこんにやくがおいしくてね。でも、まさか自分が仕事でこんにやくを作るようになるとは思わ

なかった。でも、く有限会社代表取締役）はそ

う言って笑顔を見せる。総領

町は昔から、こんにやく芋の

なんだな」

坂口静男さん（総領こんにやく

はそ

う言って笑顔を見せる。総領

町は昔から、こんにやく芋の



30年来の製造方法を守っている。

栽培が盛んな土地だった。自分たちが食べるこんにやくも、各家庭で手作りされていた。そうした昔ながらの製造技法を後世に残そうと、地元有志で組合が設立されたのが昭和六十二年。一時は経営危機に陥るも、平成二十六年に坂口さんが経営に参画、単価の見直しや新商品の開発に力を入れるなどして立て直した。

「うちは、原料のこんにやく芋から自分のところで作っているから」

一町二反（約一・二ヘクター）の土地を借りて、昔から地元で栽培されていた在来種のこんにやく芋を育てている。坂口さんの会社で使っている芋は三年もの。こんにやく芋の栽培には時間がかかる。一年目でピンポン玉の大きさ、二年目でみかんの大きさ、三年目でようやく収穫。そのま

ま育てるとさらに大きくなるが、味は落ちてしまう。「経営効率を考えると、芋を買った方が安上がりだし楽なんです」

過湿や乾燥に弱いこんにやく芋の栽培には手間がかかる。二年間育てた芋が、三年目に病気で駄目になることもある。それでも自家栽培にこだわる

のは、農薬も含めた食品の安全性に、最後まで責任を持ちたいから。

「これから体が育ってゆく子供たちにはとくに、ちゃんとしたものを食べてもらいたいじゃないですか」

生芋からこんにやくを作る。三十年以上も使っている機材を使って、ひとつひとつ手作りする。そのこだわりが、独特のやわらかい食感を生み出している。大手企業の大量生産品は、乾燥芋や粉末を原料にしている。そのパッケージ加物が使われている。

総領のこんにやく芋は、マナンという粘り気成分が豊富で、味の染み込みやすいこんにやくが製造できる。そうした特長を生かした「煮込みこんにやく」は、比婆牛のすじ肉と砂糖、醤油、だしを一緒に煮込んだもので、イベント限定の販売だが、県外からわざわざ買いに来るファンがいるほどの人気だという。

そして、夏はやっぱり刺身こんにやく。「手づくりさしみこんにやく」の商品の袋に、「おいしい食べ方」のレシピが入っている。楕円状のこんにやくをさっと水洗いして半分に

カット、お刺身状に薄くスライスして、氷水でよく冷やす。「※酢味噌、きなこ、わさび醤油等お好みのタレでご賞味下さい」と書いてある。

「試食させてもらったが、タレを変えることでまったく違った味が堪能できる。味がよく染み込んで、もちもちした食感が楽しめる。試作品だという「わらび餅風さしみこんにゃく」（仮称）を、きなこをつけて食べてみた。まるでスイーツ感覚、黒蜜で食べてもおいしいと思った。「若い人（従業員）のアイデアなんです」

みんなからアイデアを募集して、みんなで試食を重ねて商品を開発する。青じそ&クロレラ、えごまを練り込んだ「さしみこんにゃく（バラ）」も販売されている。

「こんにゃくは、とても可能性のある食材なんです」

新しいものを作っても、そのベースには地元の伝統技法がある。安全でおいしいものを地道に作っていれば、派手な宣伝をしなくても必ず認めてもらえるはず、坂口さんの口調は自信に満ちている。

問い合わせは総領こんにゃく有限会社（☎082418812312）

新・図書館員ノート「思い出の一冊」⑤

「冒険者たち」(福音館書店)

本だけは、惜しみなく与えられて育った。しかし下の子は、んで育つ。就寝前の読み聞かせも、兄には中学年くらいまで続けていたようだ。私はそれを隣の部屋で、盗み聞きしていた。母曰く、「あんたは早くから一人で読んでたから」だそう。兄妹の持ち物は共有ではなく、かなり厳密にそれぞれの物だった。『ぼるぶのセット』『世界文学全集』『怪盗ルパン』…と兄の持っている本はどれも魅力的だった。私は早くからそれらを盗み読みしていた。

中でもお気に入りには、『冒険者たち』



(斎藤惇夫作 福音館書店)だ。アニメ化され、何度も再放送され、2015年には映画化されると、長く親しまれている作品だ。獯猛な白イタチ・「ノロイ」の攻撃を受ける島ネズミを助けに、ドブネズミの「ガンバ」と仲間たちは夢見が島へ渡り、知恵と力の限りをつくして戦う。大嫌いなネズミの話だが、こっそりと何度も何度も読んだ。児童文学のわりに、仲間がどんどん殺され、血まみれの描写もあった。全滅か？と思わされるドキドキ感がたまらなかった。「ガクシャ」と「イカサマ」がかっこよかった。今思えば私の本の知識と原点はこの「盗み読み」のようだ。これらの本は未だ捨てず家にある。新しい本をいくら読んでも、数年に一度読み返している。収集癖も相まって本棚から本が溢れだしているが、捨てられない。おそらくずっと傍に置いておくだろう。座右の書が多すぎるけれど…。

(三次市立図書館員によるリレーエッセイ、執筆者の似顔絵は、執筆者が友人に作成してもらったそうです)

どら書房 喫茶コーナー

モカ、コロンビア、イタリアン等々、本格コーヒーやっています。



試飲券50円(通常150円)

※切り取らずにお持ち下さい。

どら書房 委託販売コーナー

★「天馬書林」

新書の教養書や人生指南本、ノンフィクションが充実。

★「サワちゃん文庫」

中国、日本の歴史書、思想書が中心のラインアップ。

各専用棚で好評販売中！

柳田国男『木綿以前の事』

一つの技術が美意識を変えた

日本の民俗学を切り開いた柳田国男は、歴史に登場しない大多数の「常民」の生活に光を当てました。政治の動きや著名人の事蹟を、文字に残された記録から再現する「歴史」に対して、庶民が営々と生きた痕跡を拾い集める「民俗学」を学問として定着させようとなりました。ことに、女性を中心とした暮らしの移り変わりに注目したのが『木綿以前の事』（創元社、1939年刊）です。

表題作「木綿以前の事」は1924年に発表しますが、「寡婦と農業」「酒の飲みよの変遷」など衣、食、住にまつわる女性の暮らしなどを見据えたその後の小論を集め、本にまとめたものです。年月や統計などの数字を使わず、経験的な直感によって説いているのが特徴です。

まず、「木綿以前の事」では、庶民の衣服が麻から木綿に移り、肌触りが格段によく、様々な色に染めらる感動を次の様に描いています。「今まで眼で見るだけのものと思っていた紅や緑や紫が、天然から近よって来て各人の身に属するもの

となった。心の動きはすぐに形にあらわれて、……人は昔より一段と美しくなった。つまり、木綿の採用に

る」として、肩腰の丸みが出て、「身のこなしが以前よりは明らかに外に現れた」というのです。木綿の出現が、日本人の所作と美意識に及んでいることの発見です。柳田国男は、木綿に寄せるこれら女性の思いを、芭蕉の『七部集』か

また読んでみたい本²⁹

青年たちに

音谷 健郎



【角川文庫版の表紙】

古今東西の文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の青年たちにも読んでもらいたいと思います。毎月1冊ずつ紹介しています。

第29回は、柳田国男の『木綿以前の事』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を経て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

よって、生活の味わいが知らず知らずの間に濃（こまや）になって来た」木綿は16世紀に入って本格的な栽培が始まり、江戸時代に急速に広がったといわれます。「色ばかりかこれを着る人の姿も、全体に著しく変わったことと思われ

ら「はんなりと細工に染まる紅うこん 桃隣」の句を引用しています。紅をぼかしたうこん染めの着物姿に心躍った様を証明するために、俳句に着目したのです。民間伝承などではとらえきれない「微細な心」を伝えるものを、俳句に求めたのです

合わせて、社会の変化にも目を向けています。「広々とした平地が綿田になり、綿の実の桃が吹く頃には、急に月夜が美しくなったような気がした。麻糸に関係ある二千年来の色々の家具が不用になって、後にはその名前まで忘れられ、そして村里には染屋が増加したことを挙げ、事象の二面性を洞察しています。「女と煙草」では、女性の吸い付け煙草（煙管の火を吸い付けて相手に差し出す仕草）を取り上げ、共食（儀礼的な食事）の心理ではないかと推測しています。以前は、ツケサシと呼んで、酒の作法の一つだったことを根拠に挙げています。「寡婦と農業」では、農村における寡婦の身の立て方を様々に考察したものです。例えば稲扱（いねこき）器の改良がゴケナカシと呼ばれ、却って寡婦を農作業から遠ざけた事情とか、居酒屋の風習が、寡婦の生活を立て、「飲食の法則（共食としての酒）」の解放を促したことなどを挙げています。小さな事象から、大きな世の移り変わりを読み取って、読む側をあっと思わせます。次回は、これらの手法で世相を体系的に描いた柳田国男『明治大正史世相篇』を取り上げます。

虫と草木と人びとと①⑦ 中村慎吾

「溪流釣り」

著者紹介…一九三一年、比婆郡(現・庄原市)比和町に生まれる。農学博士(九州大学)。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びとと」(シンセイアート出版)から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

新緑の萌える溪流に糸を流し、ググッと腕にくる感触は何とも言えない。一度、溪流釣りの味をしめた者はすっかり、そのとりこになってしまふ。今、溪流釣りのとりこになった者にとって溪流魚の絶滅あるいは激減は痛恨のきわみである。

中国山地の溪流にはゴギ(方言ではコギ)とヤマベ(方言名ヒラベ)がいる。ヒラベと呼んでいるものにはヤマメとアマゴがふくまれているが、最近、ヒラベが姿を消した溪流へ放流されているのはアマゴのようである。

一般的にはゴギがより上流に、ゴギのすむところより下流にヒラベがすみついていて、両種間に「棲み分け」が見られると言われている。しかし、中国山地の溪流では、このことを確かめ得ないうちにヒラベが姿を消してしまった。

今、手元に残る観察メモを出して

みると、水温による「棲み分け」と一般的に片づけられない例が多いように思われる。例えば源流域までずっとヒラベがいた例、ヒラベがいた水域より下流にゴギがいた例、同じ淵に生息していた例と、むしろ、一般的に言われていることとは反する観察例の方が多い。同じ淵に生息していた場合、かくれ家となる岩を中心に棲み分けていたが、これはかくれ家を中心にテリトリーを形成しているものと解すべきであろう。それは、その淵のゴギやヒラベを釣り上げ、しばらく間をおいて再び釣りに訪れた折、ヒラベがいたところにヒラベがおらず、種類がいれかわっており、生活に有利な空間を体が大きく優位にあると思われる個体が占めているからである。

溪流を遡上しながら餌をめがけて飛び出すゴギの姿、餌をとりそこねてすばやく岩下にかくれる姿態など

を眺め、その行動をメモし、また、釣り上げた種類を確かめ、大きさや性別を記録したり、胃の内容物を調べたりするが、こんなことの積み上げで溪流魚の生活を調べていこうというのも博物学である。

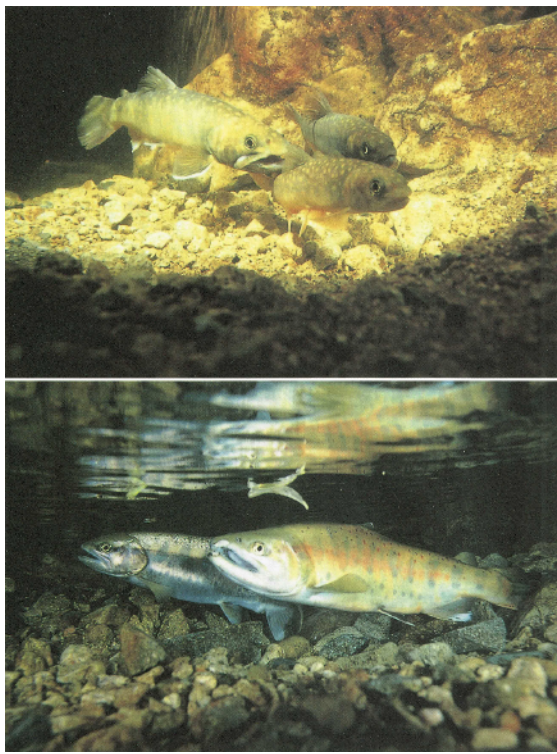
ヒラベの生活史は解き明かされる前にその姿を消したが、幸いなことにゴギの生活史の一部は解き明かされた。それはゴギの魅力に引かれ、大学を出るとすぐにへき地の分校に赴任した竹下さんの業績である。その竹下敦さん(元口和町立口和中学校教諭、淡水魚の研究者)もとづくに不惑を越した。しかし、ゴギの生活史を解き明かしたいと、仲間と釣りを楽しみながら一見何の変哲もないメモを今でもとっている。

日本の昆虫学の発祥地は札幌農学校(現北海道大学農学部)といえる。兵庫より笈おを負って札幌農学校に学

んだ松村松年しやうねんは在学中から昆虫の研究を行い、卒業後は母校の教授として日本の昆虫学の基礎を確立するとともにその門下からは幾多の優れた昆虫学者が輩出したからである。

松村松年には溪流釣りの趣味があつて、釣り上げる量は一緒に行つた誰よりも多かったという。その秘密は釣り上げるとすぐ魚の胃を開き、その内容を調べ、最もよく食べていた水生昆虫をつきとめたうえ、川底を探つてその虫を捕えて餌にしたからだというエピソードが残っている。

溪流魚の食餌を確かめながら、最も好みにあう餌を針につけて魚を誘いこむことは魚との知恵比べでもあり、溪流釣りを楽しむ者にとって、うまく餌が当たって魚獲が多いとき、その喜びは格別である。このことはまた生き物をこよなく愛しているナチュラリストにとっても楽しい



上 ゴギ (中央は♀、左右は♂)
(県民の森、1993年10月31日 内藤順一氏撮影)

下 ヤマメ (左は♀、右は♂)
(熊野川、1997年10月26日 内藤順一氏撮影)

ことでもある。溪流魚のメニューは
 どのようなか、考えてみると別に大し
 たことでもないことに一喜一憂して
 いるのも博物学ならではのとい
 うであろう。

ゴギの胃内容物を調べてみるとず
 いぶん悪食であることがわかる。溪
 流性の水生昆虫が主な食物である
 が、タカハヤ(ドロバエとこの地方
 では呼ぶ)やカワヨシノボリ(方言
 名ナラセ)などの魚からヤマアカガ
 エルを食べている例を観察してい
 る。また、夏季は樹上から落下する
 ものをかたっぱしから食べているよ
 うで、思いがけない虫の珍種をゴギ
 の胃中から採集することもある。ゴ
 ギは上流域の住人なので、冷水域に
 分布しているムカシトンボの幼虫も

食べている。ムカシトンボは日本と
 ヒマラヤの一角に生き残るきわめて
 古い型の昆虫で、トンボの系統上、
 特異な位置を占めているトンボであ
 る。

趣味の溪流釣りから発展して水生
 昆虫を調べている金沢成三さん(元
 東城町立帝釈小学校長、水生昆虫の
 研究家)は、中国山地の源流域の水
 生昆虫相を特徴づけているのはムカ
 シトンボとキタガミトビケラだ、と
 いう仮説をゴギの分布からたてた。
 そして、身を切るような早春の溪流
 をいくども探索して、ついにそのこ
 とをつきとめた。しかし、彼はそれ
 だけでは物足らず、この山地の溪流
 を特徴づけるものは何かと、この冷
 たい冬も水中の探索を続けている。

老いの雑記帳⑥ 「酒の功罪」

新聞のコラム(中日新聞「中
 日春秋」)に面白い記事があった。
 「酒の十徳」と「酒の十損」である。
 江戸時代の『百家説林』の中
 の「飲酒十徳」では、(1)礼を正し
 くし、(2)労をいとひ、(3)憂いを忘
 れ、(4)鬱をひらき、(5)気をめぐら
 し、(6)病をさけ、(7)毒を解し、(8)人
 と親しみ、(9)縁を結び、(10)人寿を
 延ぶ……の徳である。



なぜか酒飲みの自己弁護に聞
 こえてくる。反論もある。「徳」

「中日春秋」では更に続けて次の
 ように書いている。『徳と損の境
 を見極めたい。ことわざに「一
 杯は人酒を飲む、二杯は酒酒を
 飲む、三杯は酒人を飲む」という。
 量が過ぎれば正体を失う。お酒
 はほどほどが肝心。』と。

そう言われても、飲み始めた
 ら止まらないのが酒なのである。

「思いのままに我が心の雑記帳
 」（鈴木澄夫著）より

「このナビを信用すると、とんでもない目に遭うからな。ちゃんと地図を調べてから運転するんだぞ」

車を借りた友人から忠告されていた。古い機種なので、登録されている情報も古いのだろう。それでも、岡山までは順調に誘導してくれたので、つい頼ってしまった。倉敷から最短距離で東城まで行くつもりが、カブトムシ型の年代物のワーゲンには、樹木が生い茂る山中の隘路を走っていた。

「どこに連れて行くつもりなんだ？」ナビに向かって悪態をついた。「ルートから外れました」とヒステリックに叫んでいたのだが、くたびれてしまったのか、いつの間にか沈黙している。

気分転換にラジオを点けた。チューニングのボタンを何度も押し、雑音交じりだが、どうにか聞き取れる局を探し当てた。天気予報をやっていた。台風23号が日本海に抜けて、中国地方一带はフェーン現象で猛烈な暑さだという。台風がきていることも知らなかった。

今は緑のトンネルに日射しが遮られて、全開にした窓からは高原の涼風が入ってくる。ドライブ気分での運転は楽しいが、そろそろガソリン

が心配になってきた。山中でガス欠になっては悲惨すぎる。(うん?)

自分の目を疑った。フロントガラスの向こうに人影が見えた。女性であることはすぐにわかった。オフホワイトのミニ丈のワンピース、まるで街中を歩いているような格好ではないか。

車を停めて、クラクションを鳴ら

「妊娠した男」

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子(27)

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

した。彼女が振り向いた。驚いた。泣いているのだ。しかも号泣。全身を震わせるようにして泣いている。それでも、すごい美人だということ

はわかった。

「どうしました？」

答えはない。

「乗りませんか？」

他の言葉が思い浮かばなかった。彼女は泣きながら頷いて、おれが手

を伸ばして開けた助手席のドアから、車に乗り込んだ。踵の高いミュールを履いていた。

グローブボックスからポケットティッシュを取り出して、彼女に手渡した。

「ありがとう」

その一言で安心した。タヌキやキツネに化かされているのではないかと、心のどこかで疑っていた。

沈黙に耐えられなかったのは、おれの方だ。

「男が妊娠して首を吊った話……、というんですがね」

ちらりと彼女の顔を見ると、涙は止まっているようだ。

「お人良しでもとても親切な男がいましてね。山道を歩いていて、娘が首を吊ろうとしている場面に出くわした。わけをきくと、不義の子を孕んだ、つまり不倫で妊娠してしまったので首を吊る。遺書も用意したから、邪魔はしないでくれという。遺書を読んだ男は、こりゃあ、しょうがないと同情した。しかし、死に損ねて生き恥をさらした者を知つとるから、わしが縄をしらべてやろうと、台に乗って輪にした縄に自分の首を入れて引っ張ってみた。そのとき台がずれてしまい、男は本当に首吊りで死んでしまった。娘は怖くなって逃げ出した。あとで、死んだ男から遺書が出てきたもんだから、男が妊娠して首を吊ったと、大騒ぎになったんだそうです」

神石郡豊松村に伝わる民話をおれ流に脚色した。小学生のころ、学校の図書室の本で読んで、みんな大笑いした記憶がある。彼女も笑ってくれると思っただが、怖い顔で前



を睨んでいる。
 (さすがに首吊りの話はまずかったか……)

空気が読めないやつとよく言われる。

「違うと思います」

きっぱりとした口調で彼女が言った。

「死んだ男は娘の不倫相手、きつと心中するつもりだったんです。一緒に首を吊ったけど、娘の縄だけが切れて生き残ったんです。そうなるように男が細工したから」
 冷たい声だった。

「卑怯だと思います。自分だけ、逃げたんです。自分だけ致死量の薬を飲んで……」

何を言ってるんだと、彼女の顔を見た。そのとき、ガクンと車体が傾いた。視界が横転して真っ暗になり、そのあとの記憶がプツンと消えていく。

病院のベッドにいた。山道から脱輪して、車が崖から落ちたらしい。救助されたときに、車の中にいたのはおれだけで、彼女の姿は消えていた。あれは夢だったのだろうか。しかし、おれの携帯電話から警察に通報したのは、女性の声だったという。「痛みはどうですか？」

白衣の担当医が、おれに尋ねた。手術をしてくれた山岸というドクターだ。年齢は五十前後だろうか。細面の端正な顔をしているが、どこか暗い影がある表情をしている。「息をするだけで痛いです」

正直に訴えた。肋骨を三本骨折していて、折れた骨が肺を傷つけていて危険な状態だったという。

「もう少し強い鎮痛剤を出しましょう。睡眠導入剤も飲んでおいた方がいいですね」

立ち去ろうとするドクターを呼び

止めた。

「テレビが観たいのですが」

少しでも痛みが紛れることを期待した。初老の医師は頷くと、テレビのスイッチを入れて、イヤフォンまで耳に押し込んでくれた。患者想いの優しいドクターなのだろう。

「すぐに薬を持って来させます」

山岸が立ち去ったあとで、リモコンを操作して、ニュース番組を見た。台風情報をやっていた。

「大型の台風23号が四国に上陸して、ゆっくりと北上しています……」

おかしいと思った。車のラジオで聞いたときは、台風23号は日本海に抜けたあとで、フェーン現象で猛烈な暑さだと報じていたはずだ。あの記憶も夢だったのだろうか。

看護師の姿が見えた。ナースキャップを被った顔を見た瞬間、大声を上げそうになって痛みを苦悶した。彼女だ。山中で出会った泣き虫女だ。

「お薬を持ってきました」

そう言って彼女は、にっこり笑った。

《参考文献》

「ひろしまの民話(昔話編)第二集」
 (中国放送編集第一法規出版)

まちの古本屋さん
 どの書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・ 無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
 - ・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日
- 営業時間：9:30~19:00
- TEL: 090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前(三次側から)※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

< 広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 15,000円 >



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「博士の愛した数式」

くりた陸 漫画 講談社

この作品を堪能するのは今回で3回目。2004年に発表された小川洋子の小説は、読売文学賞、本屋大賞（第1回）をダブル受賞。2006年には寺尾聡、深津絵里のキャストで映画化された。そして今回は漫画。2006年出版なので、映画が公開されている最中には上梓されていたことになる。

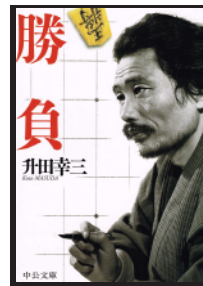
事故の後遺症で80分しか記憶が持たない数学博士と、シングルマザーの家政婦母子との交流。友愛数、完全数、そして、どんな数字でも嫌がらず自分の中にかくまってやる寛大な記号√。数字や数式がロマンチックなオブジェに変換される。作家の紡ぐ数式は無限大、名作は媒体の垣根を跳躍する。



「勝負」

升田幸三 著 中公文庫

独創的な新定石を次々と考案した不世出の名棋士の奔放な随想集。双三郡（現・三次市）三良坂町出身で、広島弁の語り心地よい。14歳の時に家出、大道詰め将棋の賞品で糊口を凌ぎ、プロ棋士の門下に入って自力で道を切り開いた。肋膜炎を患った時の快復法がすさまじい。自分で蛇をとって、心臓をのんだり臓腑を食ったり。交友関係も幅広く、そのエピソードを升田流に咀嚼して話してくれる。



「勝負師とは、ゲタをはくまで勝負を投げない者をいいます」「世の中には『勝負人間』と『ばくち人間』がおるといいますが、どちらが人生の達人になり得るか、こりやもう自明の理」。人生哲学がぎっしり詰まっている。

「ボランティアバスで行こう！」

友井羊 著 宝島社

東日本大震災のボランティアバスツアーが舞台。交通費も含めた費用はすべて自己負担、服装や道具類、食料も自分で用意しなければならない。体調管理も自己責任だ。被災地に出向くから当然のことなのだが、安易な気持ちで参加すると、トイレの使用だけでも現地の負担を増やしてしまうことになる。

就活に有利だと、大学生の和磨は打算でボランティアバスを計画するが……。エピローグを含めた7つの物語が、参加者それぞれの視点で描かれている。奉仕精神だけではない、様々な思惑が交錯する人間ドラマ。クリスティのミス・マーブルばりの名探偵も登場、推理小説としても成立している。



どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

どろくろ俳壇

※投句を歓迎します。

夕焼けや田舎の酒屋店仕舞ひ

近藤 昌平

視界零なり瀑布なり大豪雨

竹地 恵美

日傘差し昭和の男わたしです

原 博己

手の届くところに熟れしさくらんぼ

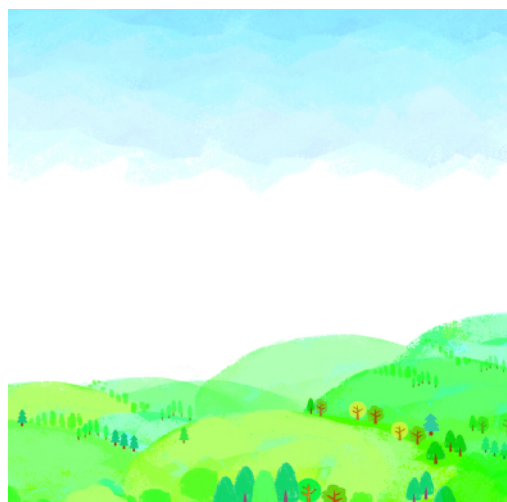
片岡 正人

草いきれ火照りの名残^{なごり}月昇る

隆 愚

全霊で干からびるまで油蟬

赤川 冬人



投稿&寄稿

「ありがとう チツチ」 富久光

子雀の名はチツチ

いつも傍に居てくれて作った梟土鈴

その数だけの想い出の作品展

庄原郵便局ギャラリーの初日

悲しくて切なくて

涙が止まらなかった

チツチと共に過ごした百五十日間

一つ一つの仕草 一つ一つの表情

みんな覚えていよ

忘れないよ

いつも肩に留まってくれて

膝に留まってくれて

胸のポケットに潜り込んでくれて

そのまま居眠りしてくれて

その可愛かったこと

退屈になると

首筋を突いて 耳朶を突いて

散歩の催促してくれて

「チツチチツチ」と話し掛けてくれ

て

チツチと呼ばば「チツチ」と応えて

くれて

出来たての梟土鈴の眼を嘴で突いて

くれて

少しも怒れなかった

ふと考え込む表情になったり

ときおり寂しそうな表情もみせてく

れた

チツチの一つ一つの仕草

一つ一つの表情

忘れないからね チツチ

沢山の想い出ありがとう

いつまでも忘れないよ チツチ

たくさんの幸せありがとう チツチ

さいごに ごめんね チツチ

(一九九七年十月三日朝六時三十分
私の油断から野良猫に捕まったチツ
チ)
当時のメモから詩起こし



県北名作館①（※過去に発表された作品を紹介）

「のぞき」の話 第2回

米花 斌



写真はイメージで本物ではありません。

正面の飾り付けがすむと、屋台前面の下部に、十数個ののぞき眼鏡をはめ込んだ高さ約一・五メートルのパネルが取り付けられた。パネルには両袖があつて、これにも絵がほどこされ、黒い障子格子がはまっていた。のぞき絵の劇画は襖を横に倒したような大きなもので、五、六枚を一組にして、筒抜けの箱の一方にセツトされた。幅は襖より三〇センチも広かった。最後にひさしに赤いれんを下げると仕上がりがだった。「のぞき」の名称は、天保から嘉永年間（一八三〇〜五五）にかけてのぞきごとを誌した『守貞漫稿』に「覗機関（のぞきからくり）、略してからくりと言う。京阪では下を略して“のぞき”、江戸では上を略して“からくり”と言った。」とあるように、「の

ぞきからくり」が省略されて生まれられた言葉である。

「のぞき節」の節回りは、発生地によって少しずつ違い、関東節、名古屋節、関西節の区別があった。のぞきからくりが人形など動く造り物から絵を見せる劇画式に変わったのは天保のころからで、それ以来、今日まで「のぞき」の構造はほとんど変わっていない。

十五年前、庄原市ののぞき屋Aさんの未亡人を同市の病院へ見舞ったとき、「劇画は、うちの人が器用で、注文して送って来た絵の上に押し絵をして使うておりました。へえじやが宮沢ハクスイ（音書き）さんの絵だけはすばらしいので、そのまま掛けとりました。」

「出し物は佐倉義民伝や不如帰、ほととぎす金色夜叉、八百屋お七、それに俊徳丸もようやりましたのう。」と、懐かしそうに話していた。「俊徳丸」は能「弱法師」の主人公。ざん言で家を追われて流浪し盲目となる物語である。「悲恋や怨恨物が多ゆうございましたの。」

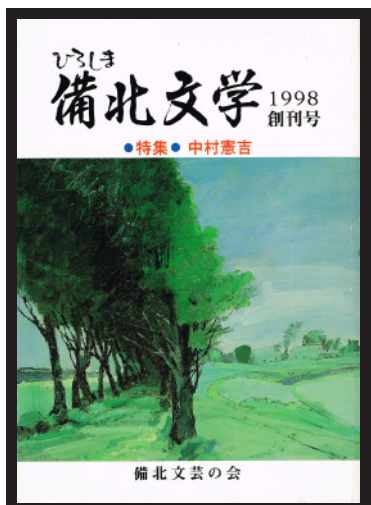
劇画は値段が張ったので同業者間で交換して使用することが多かった。のぞき眼鏡の直径は約七センチ、三〇センチ間隔に設置されて、子ども

用の低い眼鏡をのぞくおとなを見ると、川柳の「からくりをへつぱりごしでのぞいてる」（柳多留）を思わせた。

相方と交互に唄う絵物語は、単調だが七五調でリズムもよく、特有のメリハリがあつて客の心をつかんだ。出し物の取材は歌舞伎、講談のほか、例えば徳富蘆花の小説「不如帰」が新派で上演されて人気が出ると、すぐさま取り入れられた。事件物もそう、日華事変の「爆弾三勇士」も登場した。全国的に流行した「お七吉三恋緋桜」などは子どもでも覚えて、「ひざでちよっくらついて目で知らせえ」とまねをした。

（次号に続く）

◆「ひろしま備北文学」創刊号（一九九八年七月発行）からの転載です。◆



どらくろお 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

— 硬式テニス参加者募集 —

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

場所：三次運動公園の屋内&屋外コート

・火曜日 (9:30 ~ 12:00)

・水曜日 (9:30 ~ 12:00)

・土曜日 (10:00 ~ 12:00)

連絡先：中川 (☎080-5610-2376)



楽笑座・酒蔵トーク「幕末維新の群像」

疾走する若者たち、高杉晋作の決意、明治維新の助走……

講師：一坂太郎 (萩博物館特別学芸員・高杉晋作資料室長・至誠館大学特任教授)

幕末維新研究の第一人者で「長州騎兵隊」「高杉晋作の29年」等著書多数。

日時：9月1日(土) 14:00 ~ 15:30 **入場無料**

会場：楽笑座 (庄原市西本町2丁目1-10、TEL0824-72-8285)

主催：庄原市観光協会 共催：楽笑座友の会・庄原まちなか協議会

《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室&講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター(現地記者)募集!

※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろお ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

— 絵本の無料レンタル —

イベントや集会の時などにお使いください。

「箱貸し」します。

図書館の除籍本や販売には難のある本ばかりなので、破損しても大丈夫です。

ご希望の方はどら書房まで。

世界遺産3大瀑布のヴィクトリアフォールズ

滝幅1.7km、落差103メートルの大瀑布!

7月号で登場していただいたザンビアの観光大使、山崎允さんが制作に協力した番組が再放映されます。

8月4日(土) 8:30より **にじいろジーン**「夏休みスペシャル・世界遺産」

広島県下(テレビ新広島)、東京(CXフジテレビ)、大阪(関西テレビ)

発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052(赤川)
e-mail: touzin@sannet.ne.jp
年間購読料：2,000円(郵送費込)

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会

◇豪雨のあとは、三十五度を
超える連日の猛暑。被災地や
被災者の方々のご苦勞を考え
ると弱音を吐いてはいただけま
せんが、つい愚痴が出てしま
います。
◇お互い無理をしないで、や
るべきことをコツコツこなし
て、乗り切るしかないですよ
ね。

編集後記

◇総領こんにやくで取
材した坂口さん、話を
しているうちに、わた
しと格致高校の同級生
だということがわかり
ました。当時は一学年
六クラスあって、クラ
スが違おうと話したこ
ともない生徒がたくさん
います。一緒に思い出さ
ないで、こうして地元で
頑張っている同級生を
応援できるのは嬉しい
ですね。

第 211 回 ひょうばらくんちいち 「庄原九日市」

平成30年

8月9日 (木) 9:00~13:00

TOPIC 庄原九日市とは？

天正年間（440年前）に物々交換で始まった市（いち）。
昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し2001年に復活。

TOPICS

- ★市民ギャラリー「アート多愛夢」
→世界児童画ライブラリー作品展
とき：8月8日(木)~10日(金) 10時~16時
- ★風龍
→九日市スペシャル！餃子200円！
- ★どら書房
→九日市日は営業します。
月曜日と火曜日はお休み。
- ★楽笑座で「うた声喫茶」開催中。

TOPIC 出店配置図



- | | | |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ❶ お休み ❷ タラワーフード ❸ 昭助
とらぢ
二八そば加工所
アーミッシュ
さだっさ
佐藤食販
健康企画グループ ❹ 郷屋
ぬくもり | <ul style="list-style-type: none"> ❺ ちくちくはうす玉手箱
工房アム
かぐや姫 ❻ Room of Keiko
めだかの学校 ❼ 農 楽 会 ❽ 開 盛 社
アパレルゴトウ ❾ お休み ❿ お休み ⓫ お休み | <ul style="list-style-type: none"> ⓬ お休み ⓭ 山本水産
くんえん工房 香豚
ハナピラタケ広島 ⓮ まなべ商事 ⓯ 田崎屋
砂田海産
佐藤園芸
珈琲屋スプレモ
宮川屋 ⓰ お福 |
|---|---|--|

出店申込みは、【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース1,000円～ 九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 楽笑座内 TEL/FAX 0824-72-8285

ホームページ
<http://www.kunchi-ichi.jp>

